

ごめんやす

同窓会訪問記・京三三七七七

山城高校新校舎を背景に豪華な献花に飾られた紅燃碑が映えています。

同窓会に先立って幹事を代表して四名の方が冷たい雨の中、黙祷を捧げられました。

昭和十九年十二月七日、愛知県半田市の飛行機製作所にて東南海地震の犠牲となられた学友十三名の殉難学徒の命日に合わせて、同窓会が毎年開催されています。

ロイヤルホテル写真室で結婚式の親族写真でも撮るかのよう

に「前列の方、手を揃えてください」のカメラマンの声に、

「卒業写真よりきれいに取ってやん」の声が返ってきました。

総勢四十九人の良い顔が写真におさまりました。

この回は卒業生四十三名、うち六組の方が婦人同伴の和やかな会です。

会場に入ると舞台正面の金屏風の前に「紅燃」の立派な掛け軸（天竜寺平田管長筆——三三三三三回卒）と清酒二本（恩師仲島先生遺族寄贈）が目を引きます。

関矢氏の進行で会が始まりました。幹事代表の天野氏から紅燃碑参りの報告三三六、三三七、三三八回の三学年合同同窓会（六月開催、八十名参加）の報告がありました。「あと五年は続くだろう」という挨拶に笑い声が広がりました。一色氏（京三中・山城高同窓会副会長）から本部報告と恩師故仲島先生が遺言されて、毎回同窓会に寄贈して下さる清酒の披露がされました。今年は先生の七回忌にあたり、遺族が選りすぐりの秋田の地酒を贈られた経緯を紹介されました。

前回以降の四名の逝去者に長い黙祷を祈られました。

遠方から参加された方々を代表して川本氏が乾杯の音頭をとられました。

医者、弁護士、名誉教授、一部上場企業の元社長や研究室長等々、昭和の時代の繁栄に第一線で活躍された、私達、山城高校卒業生が誇る先輩の会は、堅い話はなく、和気藹々と気軽な口調で歓談がはずみずみです。

十五年ぐらいい前から夫婦同伴を呼び掛けられ、ご夫人席がテーブル用意されています。ご夫人同士も回を重ねることに親しみが増され話題が広がっています。

昭和三十一年にスター食堂で第一回同窓会が開かれ、四十九年も続いている会でした。次回幹事の藤田氏のあいさつ、宴会場の高い天井をもつき破るかと思ふほどの校歌斉唱で閉会となりました。

喜寿を過ぎたと考えられるみなさん、まだまだ続く二次会の席に揃って移られました。